

### 持ち物はあなたの名前

(今月の日本語パートナーズ 12月27日掲載)

「りおさん、消しごむはんこを作ったことはありますか？授業でできますか？」

産休のCPの代わりに来ている先生からの質問でした。

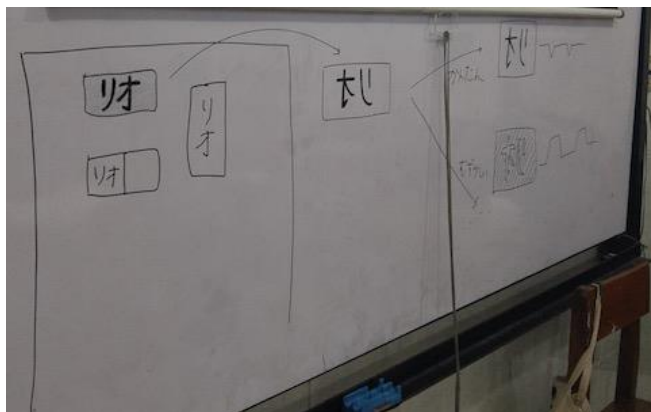
先生はインターネットで消しごむはんこを知り、いつか作って見たかったそうです。私は作ったことはありませんでしたが、先生からのリクエストということもあり、授業で生徒たちと一緒に挑戦してみることにしました。

日本では、専門書や専用グッズが売られるほど人気がある消しごむはんこ。実は個人的にいつか作ってみたいと思っていましたが、まさかインドネシアでやるとは…しかも教える側なんてなおさらです。

授業のはじめに日本の印鑑について紹介。

こちらではサインが主流ですが、日本ではサインではなくて印鑑を使うというのが不思議だったようで、生徒たちから「同じ名前の人はどうしますか？」「どうして赤い色ですか？」と質問がありました。海外での文化紹介では、自分たちが普段考えないような観点から質問が来るので、毎回そういえばどうしてだろう、と改めて考えるきっかけになります。

いつもはガヤガヤと騒がしい生徒も作り始めると集中モード。真剣に取り組んでいてさながら職人のようでした。インドネシアの学生は本当に手先が器用で、私の拙い説明にもかかわらず上手にこなしていました。



簡単バージョンと難しいバージョンの作り方を説明して、どっちを作るかは生徒に任せました。



みんな真剣です。

「せんせい！」と笑顔で紙を持ってくる生徒。そこには彼女の名前。うまくできています。私が読んであげると、今まで聞いたことのないような明るい声で喜んでいました。出来上がったはんこをペタペタとたくさんの場所に押ししている生徒もいれば、全員のはんこが押された紙を持ってと一つ一つ読み方と人を確認している生徒も。

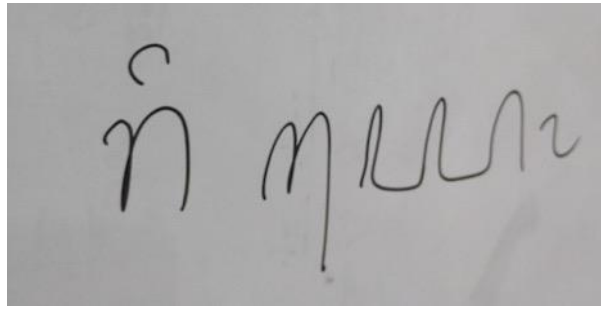


誰かのノートが知らないうちに試し押し用になっていました。



クラスごとに1枚の画用紙にはんこを押しました。それぞれ個性があって見ていて面白いです。

自分の名前が外国語だとなる、という感動は大きいです。私も生徒からジャワ語（中部ジャワ州で主に使われている地方語。インドネシア語と発音や文字がまるで違います。授業もあります。）で名前をどのように書くか教えてもらいましたが、とても不思議な気持ちでした。そしてそれと同時にジャワ語に対する親近感が強くなりました。また、書いた字を生徒に見せると喜んでくれました。



ジャワ文字で「りお」だそうです。何がどうなってるのやら…  
でもひらがなやカタカナも生徒たちには同じように見えていると思うと、  
覚えるのは大変だよなと思います。



生徒の満足そうな表情を見て一安心しました。「やってみると意外となんとかな  
る」というのはパートナーズの体験を通して学んだことの一つです。

語学学習をするに当たって、一つの壁になってしまう文字ですが、今回作った消しごむは  
んこで、自分の名前の文字から日本語の文字への親しみを持ってくれると良いな、と思い  
ながら先生も私もすっかりハマってしまい自分用の判子が増える毎日です。

「今月の日本語パートナーズ(12月27日掲載)」より (内容に一部変更あり)